

第34回 交流会

ヒューマンライブラリー「日本語学校物語を聴く」



ブックリスト

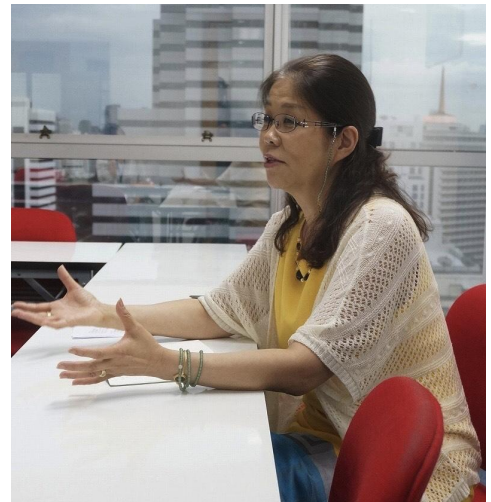


下の4冊の中から第3希望までを申し込みフォームにご記入ください。当日はこの中から2冊をお借りいただきます。読者数の偏り等により、ご希望に添えない場合があることをご了承ください。

1) 加藤 早苗 さん

『「分かり合い、尊重し合える社会」を目指し、挑み続けている話』

私はインターカルト日本語学校・日本語教員養成研究所の学校長、日本語教育振興協会の理事長を務めています。これまで30年以上、多様な日本語学習者や日本語教師志望者の方々と向き合い、時代の変遷に伴う新しい挑戦を成長の転機として捉えています。国、文化、言葉の違いを分かり合い、互いを尊重し合える社会を目指しており、一人一人の想いや背景を受け止め、対等に対話することを教育や日常の人間関係の中心に据えています。



2) 山本 弘子 さん

『多様性を追いかけて』



カイ日本語スクールの設立以来、多様な学習者の多様な学びを追いかけてきました。様々な問題に直面し失敗を繰り返しながらも、できるだけ学習者の視点を持つよう務めてきました。思い出すのは、中学の時、化学が苦手だった私に、「そうかあ」と寄り添ってくれた先生です。学習者を信じることの大切さを学びました。日本語教師という仕事は、日本にとって例外なことのオンパレードです。完成はありえない、正解もないだけに、やりがいのある仕事です。当日は、皆さんと経験を分かち合える時間になれば嬉しいです。

3) 嶋田 和子さん

『転がってきた種を植えてみたら』

カウンセラーになろうとしていた私は、ひょんなことから日本語教育の世界に入りました。そんな私が大事にしてきたのは、教室の中にとどまらず、それぞれの日本語で社会とつながるLanguage userを育てることでした。人・社会とつながるための日本語を！そのような思いから生まれたのが、『できる日本語』シリーズです。

どこに何が転がっているのかわからない人生ですが、いろいろなものを精一杯つないでいきたいと思います。今日は、どんなつながりが生まれるのでしょうか。



4) 緑川 音也さん

『歴史を生きる、共に生きる』



私は、文部科学省が日本語学校を監督するずっと以前から、日本語学校で教員をしてきました。日本文化を広めたいと思ったのがきっかけです。日々留学生と向き合い、時には、実践をもとに研究や発表を行い、制度や政策の変遷と向き合ってきました。論文には書かれていない日本語学校での奮闘を記録に残すために、現場のエピソードを題材に小説も書きました。外国人の受け入れが進む、この新たな時代に、最前線で関わってきた経験を共有できればと思います。

当日のスケジュール

- 12:30 受付開始
- 13:10～13:20 はじめの会
- 13:30～14:00 セッション1
- 14:15～14:45 セッション2
- 15:00～15:30 おわりの会
- 15:40～16:30 茶話会(自由参加)



↑お申し込みは、[こちら](#)からお願いします。

【締切】2025年10月7日(火)